

## 白馬だより

泉州労山・大町労山 鈴木 均

白馬村にも、ようやく冬が来た。正確に言えば、まとまった雪がやっと降った。

12月に入って寒い日が続いていたが、ほとんど降雪はなかった。降っても車の屋根には1センチにもならない日が2回程度。八方などスキー場の営業は、11月末の3連休からオープン予定だったが当然ながら延期していた。12月になって気の早い外国人が見え始めたが、やることなく散歩していた。

ところが、13日の夜から翌朝にかけて一気に17~18センチ。土が見えなくなり、村中が、一晩で一面の銀世界になった。気温は低いので根雪になりそうだ。来週も降雪があるようなので、スキー場も次第に本格営業ができるだろう。データ的には、白馬村の降雪量は昨日まででは例年の2%だとか。(野沢などは、60%程度あるようだ) きょう15日から多くのスキー場が営業を始めたが、滑走は1コースのみが多い。どこでも例年なら上部のみ滑走可、つまりゴンドラ等で上がって上部ゲレンデでスキーを楽しみ、下山は滑り降りられないためゴンドラ利用というパターンだが、いまの五竜は、例年より3週間遅れで、なんと下部のみ滑走可という。なぜか。上部は自然雪頼みで滑るにはまだ十分ではないが、下部は降雪機でガンガン積もらせているためだ。11月は暖かかったので人工雪もできにくい。古い降雪機は気温がマイナス3度以下でないといと雪を作れなかったらしいが、新しい降雪機はマイナス1度でもつくれるという。降雪機の購入には3~4年ほど前から五竜が先行し八方は後れをとっていた(そのため、シーズンはじめは圧倒的に五竜にスキー客が集まり、リフト待ちもあつたくらいだった)が、八方も今シーズンからかなりの台数を購入したようだ。気温が下がる夜に、ガンガン降らせていた。

いずれにしても、宿も含め、スキーにかかわるすべての事業者にとって、ようやくほっとしているだろう。まだ、「安心」はできないが……。

12/15 記

蛇足 県警は13日、「各山域の積雪は今のところ、例年と比べてかなり少ない」

「12日時点の積雪は西穂山荘付近10センチ・・・赤岳鉱泉付近と黒百合ヒュッテ付近では積雪が確認されていない」などと冬山情報を発表した(14付信毎)が、これからの天気はどうなるかわからないだろう。(15日現在県警hpにはまだアップされていない) 15日朝の原村の知人の電話では、八ヶ岳の稜線は昨日から白くなっているとのことだった。